

縁	世田谷区立砧中学校 校長室だより 令和5年 1月10日 第 50 号 校長 大坂 崇		教育目標 「豊かな人間性の育成」 ◎ 集団生活における責任感と自主性を養う ◎ 健康な心身の育成と勤労の喜びを培う ◎ 基礎学力の充実を図り深く考える姿勢を育てる		
			社会性の学び	知的な学び	心と体の学び
			自他の尊重	主体的な学び	心身の健康
			地域貢献	学習の定着	

## ファシリテーション（１）

教員に求められてきていること

- 1 OECD(経済協力開発機構)の国際教員指導環境調査(TALIS) (R 2. 3月の結果公表) から  
\*主体的・対話的な学びを引き出す自信のある教員の割合

	批判的に考える必要がある課題を「しばしば」または「いつも」与えている、と回答した割合	明らかな解決法が存在しない課題を「しばしば」または「いつも」提示している、と回答した割合
OECD平均	61.0%	37.5%
日本	12.6%	16.1%

補足： 1 批判的思考の要素（京都大学 楠見教授）  
 ① 証拠に基づく論理的で偏りのない思考  
 ② 自分の思考過程を意識的に吟味する省察的（リフレクティブ）で熟慮的思考  
 ③ より良い思考を行うために目標や文脈に応じて実行される目標指向的な思考  
 2 批判的思考で大切なこと（同教授）・・・「批判」と「非難」は違う!!!  
 ① 相手の発言に耳を傾け、証拠や論理、感情を的確に解釈すること  
 ② 自分の考えに誤りや偏りがないかを振り返ること

- 2 日本の教員の現状

新指導要領では、教員に「Teacher」と「Facilitator(ファシリテーター)」の2役が求められています。  
 ファシリテーション型授業は、欧米では50年以上前から実施されてきました。  
 これらの国では、教員自身も中学・高校生の時期にファシリテーション型授業を体験しています。  
 つまり、授業の目的に応じて、何をし、どのようにファシリテーターの役割をするかを理解しています。  
 But・・・日本では、ファシリテーション型授業を経験した教員がほとんどいません。  
 そのため、教員自身の「ファシリテーター」のイメージもあいまいなケースが多くあります。  
日本の教員は、「ファシリテーション」のイメージを明確にし、「スキルの理解」を深めるのがまず重要。  
イメージがあれば、「主体的・対話的で深い学び」での「ファシリテーター」の役割を完璧に果たせなくても、どう考えて進めればよいかを意識できるようになります。

- 3 同質性 から 多様性 へ（ハイコンテキストの時代からローコンテキストの時代へ）

集団の中の個々人の 同質性が高い ⇒ ハイコンテキスト（少し前までの日本）

多様性が高い ⇒ ローコンテキスト（現在）

価値観・人種・信条・国籍・言語・生活環境等について多様性拡大 = 話さなければわからない

⇒ ※コミュニケーションの円滑化・容易化が必須の時代

- 4 ファシリテーション と ファシリテーター

ファシリテーション ⇒ 集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、教育・学習、変革、自己表現・成長など、あらゆる知的創造活動を支援・促進する働き

ファシリテーター ⇒ その役割を担う人（日本語では「協働促進者」or「共創支援者」）  
 プラスの相互作用を高め、マイナスの相互作用を抑え込む

※ facil(ラテン語)：英語の easy の意味（容易にする、円滑にする、スムーズに運ばせる）